

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「小児科」

信州大学医学部小児医学教室

齋藤章治

私が小児科を選択したきっかけは、小児科のポリクリでした。私たちのポリクリ班は、小児科からのスタートでした。その当時は厳しい先生が多くいらっしゃって、前評判を聞いて、私たちは戦々恐々と(?)ポリクリに臨みましたが、実際にはとても楽しく充実した実習でした。小児科は非常に活気があり、カンファレンスでも一人の患者さんについて熱い議論を交わしていました。ちょうど中堅バリバリで活躍されていた中沢現教授が、カンファレンス中に前教授の小池先生に食ってかかるところも目撃し、経験年数にかかわらず自由に議論ができる雰囲気に魅力を感じま

私がなぜ現在の科目を選んだか

## 「形成外科」

信州大学医学部形成再建外科学教室

高清水一慶

巡りあわせとは不思議なものです。

私が、形成外科を選択した経緯を知っていただくには少し昔にさかのぼらないといけません。もともと、物づくりや Science が好きで、特に生命の設計図とも言われる遺伝子に魅せられ、高校卒業後、私は大学の理学部で遺伝子工学を学んでいました。ところが、ある時見た1枚の写真がきっかけで医学に興味を持つようになったのです。それは背中にヒトの耳がついたマウスでした。再生医療がさかんに進められている現在では驚くことではありませんが、当時は映画やアニメでしか出来ないと思っていたことが現実になってきたと衝撃を受けたのを覚えています。その後、再生医学を学ぶために大学院へ進学しましたが、次第に違和感を覚えるようになりました。それは研究成果が本当に活かされるのかわからなくなってきたからです。そして自分の目を見て、感じなくなったのです。臨床の現

した。そのほかの科もそれなりに楽しかったのですが、やはり最初に回った小児科が忘れられず、私達は新臨床研修制度が開始する直前の学年でしたので、そのままストレート入局することになりました。

入局してかれこれ15年を超えますが、やはり小児科でよかったなと思います。小児科では、こども達と接する時間が多く、日々癒されます。また、信大小児科では伝統的に血液学を積極的にやっておりますが、これも私の性に合っていました。血液学では、診断から治療、そして研究に至るまで、すべて自分たちの手で行うことができます。難病の子供たちの治療から、新規の治療法の開発までやりたいことは山ほどありますが、ひとつずつ着実にこなしていければと考えております。

(信大平15年卒)

場では何が起きていて、そして何が出来ないのかを。

私は医学部へ編入しました。しかし医学部で学ぶべき知識は膨大なもので、いつしか自分の本来の目的や未来像もゆっくり描く間もなく時は過ぎて行きました。研修医となり、地域関連病院で研修する中である診療科に出会いました。それは、失われた組織や機能を再生・再建する、全診療科の中で唯一、形を作り出す科、形成外科です。医学生の時習ったはずなのですが、その時は自分のアンテナが向いていなかったのだと思います。

形成外科は比較的新しい科と思われていますが、実は古代インド外科学の最高傑作ともいわれるスルタ大医典にも記載がある程歴史が古く、また奥が深い魅力ある学問なのです。物づくり、生命の設計図、医学、再生・再建、いずれも私が興味のある分野であり、それを全て満たしていた診療科が形成外科だったのです。その“耳マウス”を発表した論文も形成外科で権威のある学術雑誌に掲載されていたことを後に知ったのですが、今思えば、その時からすでにもう形成外科という学問に魅せられていたのだと思います。

巡りあわせとは不思議なものです。

(信大平22年卒)